

脳

心の脳

九月末日に生活アンケートを行いました。これからは毎月末に生活アンケートを実施します。生徒の皆さんが安心・安全に西南中で過ごすことができるように、不安や心配があってもそれらが大きくなる前に対応するためです。

アンケート項目の中に「いじめ」についての質問をさせていただきました。そこで今回は「いじめ」について科学的にアプローチしたいと思います。(前号は遺伝子レベルのお話でしたね。)

なぜ「いじめ」は悪いのでしょうか？

浜松医科大学の永田勝太郎先生が、興味深い研究をいらっしゃいます。それは…、人間の『脳』についてです。

人間の脳は、三つの部分からできているそうです。(下図参照)

脳の一番奥にある「脳幹のうかん」という部分。

「ここは、呼吸をしたり、物を食べたり、排泄をしたり、眠ったり…、と生命を維持する基本となる命令を出すところ」です。

「これは、「へビ」や「トカゲ」といったハチユウ類にもある脳で、言わば『へビの脳』です。

その外側にあるのが「旧皮質」という部分。この部分には、喜んだり、悲しんだり、怒ったり、泣いたり…、といった感情を司る働きをしています。(「インサイドヘッド」という映画がありましたね。)

「この脳は、「イヌ」や「ネコ」等のホニユウ類に備わっています。言わば『ネコの脳』です。

「番外側にあるのが、「新皮質」という脳です。

「この脳は他の生き物との違いがあるところで、ものを覚えたり、何かを考えたり、言葉を話したり…、といったことができるのです。それらはこの「新皮質」という脳があるおかげなのです。言わ

ば『ユウの脳』です。

私たち人間は、この三つの脳がうまく働くことで生きていくことができます。

実は「いじめ」というものは、大変やっかいなことで、

「いじめ」は、「へビの脳」を攻撃することに他ならないのです。

ヒトは、「へビの脳」を攻撃されると、生きるための基本的な力を出すところがダメージを受けますので、

“生命力”が減退していきます。

呼吸が苦しくなったり、眠れなくなったり、食事をうまく消費できなくなったり…と、生きていこうとする力や勇気、やる気が失われていくのです。

すなわち、「いじめ」は、ヒトの生きる力を奪う行為なのです。

(そんな大げさな…)と感じる人がいるかもしれませんが、保健体育の授業で「心と体の関わり」という単元を学習していると思いますが、心の調子が悪い(「へビの脳」がダメージを受けると、身体の調子が本当に悪くなるのです。

いじめられている人は、「自分がいじめられている。」と、自分からなかなか言えないものです。これはある意味当たり前のことで、人間というものは、自分の弱いところや一番知られたくないことは、隠そうとするものだからです。

だからこそ、周りの人が「気づいて」「あげなくてはいいけません。そのため手段の一つとして生活アンケートを毎月末に実施しますので、安心して回答して欲しいと思います。

「その子の失敗や、ちよつとしたミスを誰かがニヤニヤしながら目くばせしている」「必要以上強い口調で言われている」「休み時間ひとりぼっちになりたがる」…、いろいろなサインを、周りの仲間や大人が気づいてあげなくてはいいけないのです。

そんな周りの姿・言動や目が、「いじめは絶対に許さない」という本気のこだわりにつながっていくのです。

